

「杉並区区民等の意見提出手続」の実施結果報告

- ◎ 政策等の題名:「子ども・子育て行動計画(後期計画)」
- ◎ 政策等の案の公表の日:平成22年9月21日
- ◎ 意見提出期間:平成22年9月21日から10月20日まで(30日間)

上記の政策等の案について意見提出手続を行った結果、23件、延べ72項目の意見の提出がありました。提出方法別の件数及び項目数は、以下のとおりです。

提出方法	件数(A+B)	人数(A)	団体数(B)	項目数
文書	8	7	1	25
FAX	5	4	1	28
電子メール	0	0	0	0
ホームページ	10	10	0	19
その他	0	0	0	0
合計	23	21	2	72

注1)件数:提出意見(但し、同一主体から複数回に分けて寄せられた意見については1件とする)

注2)項目数:寄せられた個人毎の意見の総数(例 提出件数2件 A氏;2項目、B氏;3項目⇒項目数;5)

- ◎ お寄せいただいた区民等の意見の概要と、区の考え方は以下のとおりです。

【推進プラン1】仕事と生活の調和の実現を図ります

意見の分類	意見の概要	項目数	区の考え方
保育事業における民間事業者の参入について	どの保育所に入所している子どもも、安心して過ごせる健康的な環境が保障される必要があり、保育事業に誠実な事業者か、適正な経営を行っているか、区が責任を持って監督するべきである。	1	杉並ならではの質の高い保育サービスを提供していくため、国における保育所の基準に係る地方分権改革や法改正の動向等を踏まえ、杉並独自の基準のあり方について検討します。
保育所定員の弾力運営と保育所基準の緩和	認可保育園の定員は毎年増員しているが、これ以上の定員の弾力運営、国の進めようとしている規制緩和は危険である。	1	
保育所の増設と定員増加	認証保育園は保育料の負担が重く、保育室、グループ保育は緊急避難的な対応である。認可保育所の増設又は抜本的な定員増を望む。	3	増大する保育需要に対して、保育園等の受入の拡大、認可保育園の増設、認証保育所の増設等を、計画的に進めます。
保育費用の考え方	保育のコストは、将来、社会を背負い社会基盤を支える人材への投資であり必要経費である。保育事業の経費削減は、保育環境・条件の劣化に繋がるため、認められない。	1	

<p>保育需要予測と事業目標</p>	<p>杉並区の若年人口の予測は下降方向に無く、また、保護者の就労意欲も高く、保育需要は一層高まると思われる。計画案で示された保育需要予測や保育所、学童クラブの待機児童解消のための事業目標は不十分である。</p>	<p>2</p>	<p>保育サービスの目標事業量は、国の指針において示された参酌基準、区のニーズ調査により需要を見込みつつ、現在の区のサービス基盤の現状を踏まえ、設定しました。今後、ニーズの動向等を注視し、必要に応じて見直しを図ります。</p> <p>また、学童クラブの登録児童数は、対象となる児童の人口推計値を基に、近年の学童クラブ需要の動向を踏まえて推計しています。児童の自力通所である学童クラブは広域的な対応が難しいため、個別の学童クラブの状況を踏まえつつ、小学校の余裕教室等を活用した学童クラブの増設・移転等を進めます。</p>
<p>待機児童対策 (保育者の養成)</p>	<p>単に保育所を増設するだけでなく、保育者(ベビーシッター)の養成なども必要である。</p>	<p>1</p>	<p>地域で家庭的保育を担っている家庭福祉員の増員など、制度の更なる充実を図ります。</p>
<p>第二子の慣らし保育</p>	<p>第二子の慣らし保育期間中は、復職後に休暇を取得しなければならない。ゆとりある子育てをというのであれば、第二子以降も第一子と同じ条件にして欲しい。</p>	<p>1</p>	<p>慣らし保育と確認できる期間については、第二子についても配慮します。</p>
<p>入所予約制度の導入</p>	<p>1歳児からの入所枠を確保することを目的として入所予約制度を検討しているとのことだが、大変素晴らしくぜひ実施して欲しい。需要に見合った人員枠を確保し、安心して育児休業を取得できる状況にして欲しい。</p>	<p>1</p>	<p>出産後に仕事の継続を希望する保護者が、計画どおり育児休業を取得できるように、育児休業者に対する入所予約制度を早期に実現し、年度当初の待機児童の減少を図ります。</p>
<p>学童クラブの環境改善</p>	<p>現在、学童クラブは飽和状態で、居心地の良い環境ではない。十分なスペースと子どもたちがホッとできる環境を目指す必要がある。</p>	<p>1</p>	<p>学童クラブでの生活環境が過密状態とならないよう、児童1人あたり1.65㎡以上の育成スペースを確保しています。また、登録児童数に応じて適切に職員を配置しています。今後も、児童一人一人が楽しく安全・安心に過ごせるよう、学童クラブの整備を進めます。</p>
<p>学童クラブの待機児童解消</p>	<p>保育園待機児の急増は学童クラブ待機児の増加につながるが、児童館は増設されず職員の配置も不十分で、保護者の不安は増すばかりである。</p>	<p>1</p>	<p>個別の学童クラブの状況を踏まえつつ、小学校の余裕教室等を活用した学童クラブの増設・移転等を進めます。</p>
<p>児童館増設及び技能ある職員の配置</p>	<p>児童館の増設と技能ある職員の配置を希望する。平成18年、19年に出された「児童館のあり方検討会報告書」及び「同 作業部会報告書」を店晒しにしない行動計画を望む。</p>	<p>1</p>	<p>これまで児童館が果たしてきた役割・機能・成果を踏まえつつ、近年の児童を取り巻く環境の変化や諸問題等に的確に対応できるものとして、次代を担う子どもたちの健やかな成長を支援できるよう、進めます。</p>

子ども育成プログラムの提案	子どもの想像力を伸ばす新たな幼児育成プログラムと先生方の再教育プログラムを創ることを提案する。	1	区立子供園「育成プログラム」の実施により、教育・保育の充実を図るとともに、家庭教育を含めた0歳から就学前までの幼児の発達段階に応じた幼児教育・保育のあり方を明らかにし、区としての総合的な取組を推進するため、教育委員会と連携し「就学前教育振興ビジョン」を策定します。 また、区立保育園で実践してきた、乳幼児期の「生きる力、学ぶ喜び」を育む保育を体系化した保育実践方針として「(仮称)保育プログラム」を策定し、更なる保育の質の向上を目指します。
保育費用の軽減	認可保育所・認証保育所にかかわらず、保護者の負担する保育費用は同等で有るべきである。近年は家計収入の減少を背景に就労意向が高まっているので、公的負担によって負担を軽減する必要がある。	1	多様な保育施設の整備に伴い、「子ども手当」の支給をはじめとする国の保育・少子化対策の状況も踏まえ、認可保育園の保育料等の費用負担のあり方について、負担の公平性の見地から、見直しの検討を行います。
多様な保育サービスの提供	区をいくつかのエリアにわけて、エリアごとに認可保育園やひととき保育を日曜・祝日に開園してもらえないか。また、職業訓練の受講、非正規雇用者の複数就労などの多様な状況に応じ、一定した保育時間を保障して欲しい。	2	保護者の就労時間の多様化や通勤事情に対応した保育サービスを確保するため、延長保育を区立保育園で実施します。また、急な残業などに対応するため、一日単位で子どもを預かる延長スポット保育の充実を図ります。
病児保育の充実	病児保育の充実を望む。今はどの職場でもギリギリの人員で回っていて、人的余裕がない。仕事に責任ややりがいを持ち、安心して働くためには病児保育の充実が欠かせない。	1	子どもの病気等の際の保育需要に対応するため、病状安定期から回復期までを預かる病児保育と、回復期から子ども預かる病後児保育の充実を図り、保護者の仕事と子育ての両立を支援します。
保育園職員の増員と待遇改善	保育園に地域の子育てへの関わりを求め、職員の十分な配置と待遇、更には研修の機会をつくる必要がある。	1	職員配置に配慮するとともに、職員研修の充実等により保育の質の確保に努めます。
区立幼稚園の存続	充足率の高い幼稚園を子供園に転換させず、現状のまま存続させて欲しい。	7	区立幼稚園については、幼稚園をめぐる環境の変化等に対応するため、区独自の新たな幼保一体化施設である子供園に、発展的に転換を図ることとしています。
子供園の検証とも見直し	既に幼稚園から子供園に転換した2園、平成23年度に転換予定の2園について、検証を行うべきである。	1	平成22年度に2園が転換し、平成23年度に2園が転換予定となっていますが、平成24年度の2園については、定員充足率が高いことなどを考慮し、移行時期を1年間延期します。
子供園に関する十分な説明	保護者に対する説明を十分に行うべきである。	3	平成25年度の移行については、区の基本構想・総合計画及び就学前教育振興ビジョンの検討状況、国の子ども・子育て新システムの動向等を踏まえつつ、別途方針を定めて取り組みま
子育ての多様性への対応 (2年保育希望)	2年保育を希望する親子のニーズにも応えて欲しい。	4	

幼保一元化による幼稚園児枠の縮小	幼稚園での保育の受け入れを進めることは、幼稚園の入園者数を減らすことにつながり適当でない。	2	す。 また、先行する2園の運営についても、「育成プログラム」に基づく実践活動等の検証・評価を行い、来年度に向けて改善等の必要な対応を図るとともに、保護者への情報提供等に努めていきます。
子供園の実施案の見直し	待機児童対策であれば保育施設を増設すべきである。	4	
私立幼稚園の入園に伴う補助	幼稚園入園に当たっての経済的負担を大きくしないで欲しい。私立幼稚園の入園についても補助をして欲しい。	3	区では、私立幼稚園に在籍する園児の保護者に対し、入園料及び保育料に対する補助制度を設け、公立幼稚園との格差の是正を図っています。
学童クラブの入所	児童館機能を損なうことなく、学童保育希望者全員が入所できるようにして欲しい。	1	個別の学童クラブの状況を踏まえつつ、小学校の余裕教室等を活用した学童クラブの増設・移転等を進めます。
ワーク・ライフ・バランスの実現を杉並区から	杉並区は都市の優位性と財政に恵まれた自治体であることなどから、杉並独自の水準の高い「子ども・子育て行動計画」を策定する事が可能である。ワーク・ライフ・バランスの実現は杉並区から、と期待したい。	1	今後も、就労を希望する区民が安心して子ども預けられるよう、保育園・学童クラブの待機児童の解消に向けた取組を推進します。 また、仕事と生活の調和に向けた取組を行う企業の普及促進を図り、働きながらゆとりのある子育てができる環境整備に努めます。

【推進プラン2】子育て家庭や地域の子どもを育てる力を応援します

意見の分類	意見の概要	項目数	区の考え方
子育て応援券事業の効果	<p>子育て応援券をきっかけにして、地域の中で子育てを通した人と人との繋がりや支援の輪が広がり、親自身がサービスの担い手となる活動も始まった。応援券の目的である、家庭や地域の子育て力を高め、“みんなで子育てするまちづくり”を目指して、今後とも確実に事業が展開されることを期待する。</p>	1	<p>子育て応援券事業の意義を踏まえながら、「子ども手当」の導入に対応した事業の抜本的な見直しを行ったところですが、引き続き地域での子育て支援を推進します。</p>
子育て応援券の手続きの改善	<p>利用者の方からは「申込方法が煩雑」「手に届くまで時間がかかる」といった声が多く寄せられており、改善を要望する。</p>	1	<p>子育て応援券事業は、「子ども手当」の導入に伴い有償制に移行したところですが、今後、事業の検証を行う中で、事務のあり方についても必要な見直しを行います。</p>
地域の子育て団体の支援	<p>子育て応援券の購入への移行は仕方ないが、小さな団体にとり今後の運営に支障をきたすことが危惧される。「地域に根ざした子育て支援」が継続できるよう、行政との協働団体に経済的その他の支援をされたい。</p>	1	<p>今回の子育て応援券事業の見直しに合わせて、サービス事業者の自主的なネットワークづくりを進めます。今後、事業者や地域の団体への情報提供や相談対応等の活動を支援する仕組みについて検討し、可能なものから具体化を図ります。</p>
子育てサイトの推進	<p>区民参加による「すぎラボ」サイトの主体的な運営は、是非継続してほしい。当事者である母親たちの主体的な関わりは、本当に大切だと感じる。</p>	1	<p>子育て家庭や子育て支援団体などが交流し、地域の子育て支援力を向上させていけるよう、今後もより利用しやすい「すぎラボ」サイトを目指し、内容の充実などに努めます。</p>
乳幼児親子のつどいの場の効果とさらなる充実	<p>つどいの広場は、地域で子育て家庭を支える大きな役割を担っている。特に、慣れない育児にとると孤立しがちな0～2歳児親子にとって、多くの人と関わりの見守りは心の拠り所となり、更なる充実を強く希望する。</p>	1	<p>地域の NPO 法人や民間事業者が運営しているつどいの広場が地域に根付き、乳幼児親子が安心して過ごせる交流の場となるように、各機関との協働を推進し、必要な支援を行います。</p>
つどいの広場の充実のための提案	<p>運営主体の側も、父親なども含め誰もが利用しやすいひろばを目指し研鑽を積み、地域の支えを必要としている家庭がこのひろばを活用できるよう、各関係先と協働を進めていきたい。</p>	1	
地域の子育て支援者の育成	<p>すぎなみ地域大学子育て支援コースを継続するとともに、区内における修了生の保育者資格を明確にし、活動の場の確保への支援を希望する。</p>	1	<p>すぎなみ地域大学で実施している子育て支援講座をより実践的な内容に工夫し、受講後に受講者のニーズに合った活動ができるように支援します。</p>

【推進プラン3】ニーズに応じたきめ細やかな子育て支援サービスを充実します

意見の分類	意見の概要	項目数	区の考え方
妊娠出産期からの親子の健康支援	<p>地域によるサポートを充実させるために、「すこやか赤ちゃん訪問事業」との連携を強化していきたい。子育て家庭には、地域での支えが効果的であり、協力体制が組めるように運営主体の側も支え手としての研鑽を積んでいきたい。</p> <p>対象者への地域の子育て情報の提供に当っては、より具体的で活用しやすい情報の提供を希望する。</p>	1	<p>妊娠届出時や赤ちゃん全戸訪問時に、冊子やパンフレット等を配布し、利用できるサービスや、友達づくりや集いの場として保健センター・児童館の事業等を紹介しています。</p> <p>今後も、地域で安心して子育てができる環境づくりを進めるため、地域の団体や施設との連携の強化に努めます。</p>
子育て期の訪問事業の実施と充実	<p>子育て期の相談、殊に出産後の訪問育児相談の効果は、保育者の不安解消に大きな効果を持つ。育児相談に来ない、来られない親子のための訪問指導は、虐待防止につながる効果も期待できる。電話をかけてこない、相談しない場合こそ、積極的に接触する必要がある。</p>	1	<p>育児不安解消や虐待防止の観点から、出産された全家庭へ連絡をとって訪問を実施しており、面会できない家庭に対しても繰り返し訪問する等、継続して連絡をとるよう努めています。</p>
ひととき保育における新たな事業提案	<p>今後、施設によっては、今のひととき保育の枠組みでは対応できない様々な保育への対応も検討可能であるが、区としてどう考えるか。(例えば、ひとり親の就労支援、第2子以降の妊娠から出産に至る支援に伴う短期保育などで、現在の利用制限を超えての短期間集中的な預かり)</p>	1	<p>妊娠出産期の早い時期からの家庭支援、ひとり親家庭の就労支援など、多様なニーズへの対応について、ひととき保育を含めた子育て支援施策全体の状況を踏まえ、効果的な実施方法について検討します。</p>

【推進プラン4】子どもの自立を促し社会参画を進めます

意見の分類	意見の概要	項目数	区の考え方
青少年向け施策のPRの充実	<p>ゆう杉並、ユースプロジェクト、杉並区の青少年向けの施策について、もっとPR、広報戦略を工夫した方がよい。</p> <p>区公式ホームページのトップ画面では、「キッズ&ユース」のバナーが下の方にあって探しにくいなど、改善が必要である。</p>	1	<p>青少年向けの施策・事業のより一層の周知を図るため、各事業の実施にあたり、PRの充実に努めます。</p>
中学生レスキュー隊の充実	<p>中学生レスキューは年に数回しか訓練がない。技能レベルは高いので、もっと訓練の回数を増やしたり、対象者を一部の生徒だけではなく中学生全員に増やして、知識や技能を修得できる機会を設けてはどうか。</p>	1	<p>学校の防災訓練では生徒全員が参加し、地域の防災訓練にも参加していますが、活動内容の充実を図っていきます。また、レスキュー隊の意義等の周知を図り、希望生徒が増えるよう努めます。</p>
中・高校生と小学生の交流	<p>将来、教師を目指しているので、小学生と交流してみたい。中・高校生が小学校に行って何かを教えたり交流するような、異年齢の青少年が交流できるプログラムを検討してほしい。</p>	1	<p>小学生に対する中・高校生の経験を活かした授業や講座が、小学生だけでなく中・高校生にとっての自己啓発にもなるよう、事業実施について青少年の健全育成事業のひとつとして検討します。</p>
中・高生向け施設の設置	<p>ゆう杉並のような中・高校生向けの施設については、行きたくても、遠くへ行けない人もいると思うので、区内の他の地域にも作ってほしい。</p>	1	<p>児童館の役割・機能等の検証・充実の中で、中・高校生世代向けの施設のあり方についても検討します。</p>
杉並区における児童館の成果	<p>杉並区の児童館の数の多さと存在は、児童福祉のみならず、地域福祉、教育、そして防災の面から「安心」「安全」を地域にもたらす杉並区が誇るべき、そして守るべき地域資源である。</p>	1	<p>これまで児童館が果たしてきた役割・機能・成果を踏まえつつ、近年の児童を取り巻く環境の変化や諸問題等に的確に対応できるものとして、次代を担う杉並区の子どもたちの健やかな成長を支援できるよう、進めます。</p>
児童館事業への民間参入による効果	<p>次世代の児童館は館数を減らさずに、民間の知や資金の導入がより持ち込まれやすいような組織・運営へと変化を遂げることで、地域コミュニティの絆や新規住民の地域参加のきっかけが、取り戻せるのではないかと。</p>	1	
児童館の機能の充実	<p>地域のつながりが希薄となり、大人も含めコミュニケーションをうまく取り持てない人間が増える中、子どもの居場所の確保、地域の子育ての拠点、幼児から高校生まで年齢に応じた施策などの充実は年々必要性を増している。</p>	1	

【推進プラン5】特に支援が必要な子どもたちの成長を守ります

意見の分類	意見の概要	項目数	区の考え方
子育てセーフティネットの構築における協働	「児童虐待の早期発見・対応を推進するためにネットワークの強化などにより子育てセーフティネットの構築」とあるが、ひととき保育を運営する側にどのような役割が担えるのか、さらに研鑽を積み、共に考えていきたい。	1	児童虐待や養育困難により、保護や支援を必要とする子どもに関係機関が連携して対応するために設置した要保護児童対策協議会において、連携の強化を図ります。
子ども家庭支援センターにおける支援の充実	子ども家庭支援センターは大変忙しいと思うが、職員の増員などにより、現場からの問い合わせにきめ細かくすばやく応じることができるようにお願いしたい。	1	子ども家庭支援センターの組織体制・機能を強化することにより、虐待通報・相談の迅速で的確な対応を図ります。
障害のある子どもに対する日帰りショートステイ等の充実	養護学校に通う子どもを育てているが、自分の通院や体調不良により、日帰りショートステイを利用したいが、障害児を受入れる施設は数も受け入れ枠も本当に少ない。もっと施設や受け入れ枠が増えるよう、支援してほしい。	1	日帰りショートステイのニーズ等を踏まえ、引き続き増床に向けて検討します。
就学前の障害児の受入れ施設の増設、発達障害の施設・職員の充実	就学前の障害のあるお子さんが教育(保育)を受ける場が保障されておらず、安心して通える施設を増設する必要がある。すぐには無理ならば、区立幼稚園で受け入れられる体制を維持すべきである。 発達障害専門の施設、職員の増を切望する。	1	現在、関係者・学識経験者による「就学前の障害児指導のあり方検討会」において検討を進めており、その結果を踏まえ、今後適切に対応します。
ひととき保育での障害のある子どもの受入れに対する支援	発達障害などの何らかのリスクを伴う子どもたちも、可能な限り各家庭との連携で安全にお預かりできるよう努めている。安全の確保上、1対1の保育が必要となる場合の時間単位での補助も検討いただき、支援をお願いしたい。	1	障害のある子どもへの発達に応じた支援の充実のため、関係機関との連携を進める中で、ひととき保育との関係についても検討を進めます。

第三章 計画の進捗状況の点検・評価と推進

意見の分類	意見の概要	項目数	区の考え方
計画の進捗状況の点検・評価と推進	「子ども・子育て専門委員会」において、計画の進捗状況の点検・評価を行う」とあるが、その内容を明らかにしてほしい。また、評価内容についても意見を述べる機会を設けてほしい。	1	後期行動計画では、可能な限り事業目標を具体化するとともに、計画の進捗状況の点検・評価について、利用者の視点に立った評価指標を設定し、施策の改善につなげていきます。その際には「子ども・子育て専門委員会」において、計画の点検・評価を行うとともに、区公式ホームページなどで評価結果等を公表していきます。
事業目標の明確化	「行動計画案」としながら、すべての「事業目標」に年次計画の具体的数量の提示がないので、数量的目標値を明確に示し、改めて区民意見を求めるべきである。	1	

その他

意見の分類	意見の概要	項目数	区の考え方
子ども・子育て新システムとの整合性	政府の少子化社会対策会議で「子ども・子育て新システムの基本制度案要綱」が正式に決定し、法案が提出をされることになっているが、「杉並区子ども・子育て行動計画」を作るにあたりその内容を考慮すべきではないか。	1	「子ども・子育て新システム」の構築や地方分権改革をめぐる今後の動向等にも十分留意し、国の制度変更に対応しながら、区の子ども・子育て施策の更なる充実を図ります。
子ども・子育て新システムへの的確な対応	国の「子ども・子育て新システム」は、子育てを市場原理に委ね、負担を応能から応益に転じて、厳しい子育て環境にいる親子を一層困難な状況に追い込む計画である。この新システムの内容に沿って、「国の制度変更に対応」するとあっては、軽々に賛同しかねる。	1	

問い合わせ先

子育て支援課 計画推進担当

電話 03-3312-2111(内線1363)